

「物構研サイエンスフェスタ 2013 第5回 MLF シンポジウム / 第31回 PF シンポジウム」開催のお知らせ

物構研サイエンスフェスタ実行委員長 阿部 仁
下村浩一郎

「物構研サイエンスフェスタ 2013 第5回 MLF シンポジウム / 第31回 PF シンポジウム」を2014年3月18日(火)-19日(水)の日程で開催します。会場はつくば国際会議場(エポカルつくば)です。このシンポジウムは、施設側スタッフ、ユーザーの皆様が一堂に会することのできる機会ですので、是非ご参加下さいませようお願い申し上げます。

例年通り、前日の3月17日(月)の夕方にユーザーグループミーティングを開催できるように会議室を確保する予定です。実行委員会が立ち上がり、プログラム等の検討を進めています。詳細が決まり次第ホームページやPFニュース等で皆様にお知らせ致します。

今年度はMLF シンポジウムと合同開催となり、新しい交流も多く生まれ、ポスターセッションや懇親会等も含めてより盛大なシンポジウムとなりそうです。皆様のご発表、ご参加をお待ちしております。

物構研特別シンポジウム「物質・生命科学における大学共同利用～物構研のあり方を問う～」開催のお知らせ

物質構造科学研究所長 山田和芳

KEK 物構研では、標記シンポジウムを開催する予定です。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

開催趣意：

1971年、国内初の大学共同利用機関として高エネルギー物理学研究所(KEK)が発足してから40年以上が経過しました。この間大学共同利用は、大型加速器のみならず大望遠鏡や核融合実験装置など、一大学では導入・維持することが難しい大規模研究設備を整備し、大学等の研究者に広く利用を公開することで学術研究の発展・振興に資することを目的とした日本独自の制度として発展し、現在に至っています。また、大学共同利用機関は研究者コミュニティそのものを存立の基盤とし、機構長・所長の選考や教員人事等も含めた施設運営についても大学を中心とした研究者コミュニティが主体的に関与し、相互に協力しながら建設や運営・維持管理、さらには高度化をも進めつつ、成果創出を行ってきました。

一方、1994年には大学のみならず、産業界も含んだ先

端大型研究施設の幅広い共用を促進するため「特定放射光施設の共用の促進に関する法律」(いわゆる共用促進法)がSPRING-8の放射光施設に適用され、2009年からは「特定先端大型研究施設の共用の促進に関する法律」となり、適用範囲が中性子施設(J-PARC)や高速電子計算機施設(京)にも広げられました。これにより物質・生命科学の分野では素粒子・原子核分野とは違い、「大学共同利用」と「共用促進利用」と言う2つの異なる制度による運営と利用の並立という新たな状況が生まれています。これら2つの制度は本来異なる目的のために作られたものであるにも関わらず、一般公募と審査による課題選定のプロセスはほぼ同じであることなどから、一般ユーザーにとっての利用に関する違いは見えません。

物質構造科学研究所(物構研)はKEKの研究所として、大学共同利用を推進するというミッションのもと、つくばキャンパスでは放射光科学研究施設(Photon Factory、低速陽電子を含む)を単独で運営する一方で、東海キャンパスではJAEAと共同でJ-PARCの物質・生命実験施設(MLF)を運営しています。そのためMLFの中性子利用では大学共同利用と共用促進利用が共存しており、利用者も時には混乱する場合があります。一方Photon Factoryは主に大学共同利用を行っているものの、有料での施設利用により産業利用をも積極的に行っていることから、共用促進施設と比較される立場にあります。

本来大型施設には、その運用制度に関わらず、幅広い研究者に利用の機会を提供し、施設として最大限の成果を創出するという使命があります。従って我々は、物質科学・生命科学を推進する上で大型施設の運営はどうあるべきなのか、一般利用だけでなく国家プロジェクト等の重点的な利用をどのように推進すべきなのか、等について良く考える必要があります。その上、施設における機器開発や装置の維持管理を行う人材を長期的視点に立ってどのように育成するのかなど、様々な視点も含めて「大学共同利用」と「共用促進利用」の2つの異なる制度の原点に立ち戻って考える必要があると考えます。2004年に物構研が発足してから10年が経とうとしている現在、これらについて改めて考え直す機は熟している、と言えるのではないのでしょうか。

以上のような問題意識から、今回のシンポジウムでは有識者の方をお招きして、大学共同利用の将来と物構研のあり方、とりわけ物質科学と生命科学の分野における大型施設のあり方について、大所高所に立った議論を行います。その中で10年後、20年後を見通した物構研のあるべき姿を明確にすることが重要だと思われまます。このシンポジウムは可能な限り継続させて議論を深めたいと考えていますが、今回はそのためのスタートラインとしたいと考えておりますので、どうか活発なご議論をよろしく御願いたします。

日時：2013年12月17日（火）

場所：KEK つくばキャンパス 小林ホール

プログラム：

- 10:20 開会挨拶：山田和芳（KEK 物構研）
- 10:30 来賓挨拶
- 10:45 KEKにおける大学共同利用：
野村昌治（KEK 理事）
- 11:10 フォトンファクトリーの現状と課題：
村上洋一（KEK 物構研）
- 11:40 J-PARC/MLFの現状と課題：
瀬戸秀紀（KEK 物構研）
- 12:10- 昼食
- 13:30 KEKと物構研：福山秀敏（東京理科大）
- 14:00 放射光における共用促進法と大学共同利用：
熊谷教孝（JASRI）
- 14:30 特定中性子線施設（J-PARC/MLF）における
利用促進プログラム：藤井保彦（CROSS 東海）
- 15:00 ユーザーのための物構研：
水木純一郎（関西学院大）
- 15:30 物性研の立場から：瀧川仁（東京大学）
- 16:00 パネルディスカッション
パネリスト：野村、村上、福山、瀧川、熊谷、水木

PF 研究会「第2回先進的観測技術研究会 —時間分解計測の最前線—」開催のご案内

放射光科学第一研究系 足立 純一

近年の観測技術の進展は目覚ましいものがあり、今まで不可能と思われてきたことが当たり前ようになってきている。一方、先端的技术であるがゆえ、他の研究分野から見えにくくなっている点も否めない。そのため、近未来の観測技術の発展には、広く先進的観測技術の現状を知るとともに、その上で議論することが必須といえる。また、現在の観測技術の相補利用によるブレークスルーも期待される場所である。そこで、他分野における先進的な観測技術を紹介していただき、分野横断的に議論ができる研究会を定期的に開催していくことを計画している（第1回は「局所構造解析、イメージングの最前線」と題して2012年12月26日に行われた）。

第2回は、時間分解計測およびその基礎となる技術に焦点を当て、先進的観測技術の第一線で研究されている若手研究者を集め、先進的観測技術の現状と今後の展望を議論したい。すでに超高速ダイナミクス研究が活発に行われているレーザー光を用いた研究、そして、電子線を用いた高速ダイナミクス研究、cERLでの実現を目指している極短パルス THz 光による実験と関連が深い研究などについての講演を予定している。開催時期については2014年2月21日（金）の第三期運転終了後を予定しているが、確定していない状況である。講演者の先生・開催時期が確定し

だい PF Web サイトに掲載するので、是非、ご参加いただき、将来的に展開される放射光実験についてご議論いただきたい。

平成26年度前期 フォトン・ファクトリー研究会の募集

放射光科学研究施設 村上 洋一

物質構造科学研究所放射光科学研究施設（フォトン・ファクトリー）では放射光科学の研究推進のため、研究会の提案を全国の研究者から公募しています。この研究会は放射光科学及びその関連分野の研究の中から、重要な特定のテーマについて1～2日間、高エネルギー加速器研究機構のキャンパスで集中的に討議するものです。年間6件程度の研究会の開催を予定しております。

つきましては研究会を下記のとおり募集致しますので応募下さいませようお願いします。

記

1. 開催期間 平成26年4月～平成26年9月
2. 応募締切日 平成25年12月20日（金）
〔年2回（前期と後期）募集しています〕
3. 応募書類記載事項（A4判、様式任意）
 - (1) 研究会題名（英訳を添える）
 - (2) 提案内容（400字程度の説明）
 - (3) 提案代表者氏名、所属及び職名（所内、所外を問わない）
 - (4) 世話人氏名（所内の者に限る）
 - (5) 開催を希望する時期
 - (6) 参加予定者数及び参加が予定されている主な研究者の氏名、所属及び職名
4. 応募書類送付先（データをメールに添付して送付）
放射光科学研究施設 主幹秘書室 石川 銀
Email:gin.ishikawa@kek.jp TEL: 029-864-5196

なお、旅費、宿泊費等については実施前に詳細な打ち合わせのうえ、支給が可能な範囲で準備します（1件当り上限50万円程度）。開催日程については、採択後にPAC委員長と相談して下さい。また、研究会の報告書をKEK Proceedingsとして出版していただきます。

大学院生奨励課題 (T型課題) の新設について

放射光科学研究施設長 村上 洋一

大学院生奨励課題 (T型課題) の新設につきましては、これまでユーザーコミュニティ (PF-UA) との議論を重ねて参りましたが、放射光課題審査委員会および物質構造科学研究所運営会議での承認を経て、実際の運用を開始することになりましたのでお知らせいたします。この課題は、PF を高度に活用した優れた研究を主体的に推進する大学院生を、大学と PF が共同して指導、支援を行い、放射光科学の将来を担う人材の育成を行うことを目的としています。T型課題に採択された大学院生には、特別共同利用研究員 (*) として、KEK にほぼ常駐して研究を進めていただきます。

大学教員の皆様におかれましては、是非、この T型課題に学生が主体的に応募するように周知していただきますようお願い申し上げます。また、申請にあたっては、課題の趣旨を十分に機能できるようにするため、PF 側と綿密な事前打ち合わせが必要となっております。T型課題申請におきましては、できるだけ早めに PF 側との相談を開始していただきますようお願い申し上げます。

大学院生奨励課題 (T型課題) の骨子

- ◆ PF を高度に活用した研究を主体的に推進しようとする大学院生の研究を推進するための申請課題である。

- ◆ 基本的に G 型課題と同様の基準で審査を行う。ただし、申請者が主体的に申請していることを採択の前提とし、評定者 (3 名) によるヒアリングを行う。
- ◆ 本課題へ採択された課題の申請者とその内容は、Web および物構研サイエンスフェスタ等を通じて広報する。
- ◆ 毎年、物構研サイエンスフェスタでポスター発表を行い、PF-PAC で評価して、研究推進のための必要な助言を行う。
- ◆ 採択課題を推進するため、大学側教員と PF 側受け入れ担当教員により共同の指導・支援を行う。申請の事前 PF 側受け入れ担当教員と研究に関する十分な打ち合わせを行い、採択された場合は、特別共同利用研究員に申請することとする (総合研究大学院大学生が採択された場合には、特別共同利用研究員に申請する必要はない)。また、実験準備や教員との打ち合わせのための旅費を施設内規定により支給し、課題の推進を支援する。
- ◆ 課題の有効期間は最長 3 年とする。「終了届」を提出することにより、期限以前に課題を終了することが出来ることとする。また、再申請も可能とする。

(*) 特別共同利用研究員

<http://www.kek.jp/ja/Education/Graduate/Acceptance/>

予 定 一 覧

2013 年

11 月 28 日	第 2 回タンパク質結晶構造解析初心者向け合同講習会開催
12 月 17 日	物構研特別シンポジウム「物質・生命科学における大学共同利用～物構研のあり方を問う～」
12 月 20 日	PF 平成 25 年度第二期ユーザー運転終了
12 月 20 日	PF-AR 平成 25 年度第二期ユーザー運転終了
12 月 20 日	平成 26 年度前期フォトン・ファクトリー研究会公募締切
12 月 27 日	KEK 一斉休業

2014 年

1 月 11 日～ 13 日	第 27 回日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウム (広島国際会議場)
1 月 16 日～ 17 日	技術職員シンポジウム (小林ホール)
1 月 16 日	PF 平成 25 年度第三期ユーザー運転開始
1 月 17 日	PF-AR 平成 25 年度第三期ユーザー運転開始
2 月 21 日	PF, PF-AR 平成 25 年度第三期ユーザー運転終了
3 月 18 日～ 19 日	物構研サイエンスフェスタ 2013 (つくば国際会議場)

※最新情報は <http://pfwww.kek.jp/spice/getschtxt> をご覧下さい。

運転スケジュール(Dec. 2013～Mar. 2014)

E : ユーザー実験 B : ボーナスタイム
M : マシスタディ T : 立ち上げ
MA : メンテナンス HB : ハイブリッド運転

12月	PF	PF-AR	1月	PF	PF-AR	2月	PF	PF-AR	3月	PF	PF-AR
1(日)			1(水)			1(土)			1(土)		
2(月)	E	E	2(木)			2(日)			2(日)		
3(火)			3(金)			3(月)	E	E	3(月)		
4(水)	B	B	4(土)			4(火)			4(火)		
5(木)	M	M	5(日)			5(水)	B	B	5(水)		
6(金)			6(月)			6(木)	M	M	6(木)		
7(土)			7(火)	STOP	STOP	7(金)			7(金)		
8(日)	E	E	8(水)			8(土)			8(土)		
9(月)			9(木)			9(日)	E	E	9(日)		
10(火)			10(金)			10(月)			10(月)		
11(水)	B	B	11(土)			11(火)			11(火)		
12(木)	M		12(日)			12(水)	B	B	12(水)		
13(金)			13(月)			13(木)		B	13(木)		
14(土)			14(火)			14(金)			14(金)		
15(日)	E	E	15(水)	T/M		15(土)			15(土)	STOP	STOP
16(月)			16(木)		T/M	16(日)	E	E	16(日)		
17(火)			17(金)			17(月)			17(月)		
18(水)	B	B	18(土)			18(火)			18(火)		
19(木)	E	E	19(日)	E	E	19(水)	B	B	19(水)		
20(金)			20(月)			20(木)	E	E	20(木)		
21(土)			21(火)			21(金)			21(金)		
22(日)			22(水)	B	B	22(土)			22(土)		
23(月)			23(木)			23(日)			23(日)		
24(火)			24(金)			24(月)	STOP	STOP	24(月)		
25(水)			25(土)			25(火)			25(火)		
26(木)	STOP	STOP	26(日)	E	E	26(水)			26(水)		
27(金)			27(月)			27(木)			27(木)		
28(土)			28(火)			28(金)			28(金)		
29(日)			29(水)	B	B				29(土)		
30(月)			30(木)	M	M				30(日)		
31(火)			31(金)	E	E				31(月)		

・スケジュールは変更されることがありますので、最新情報はPFホームページ(<http://pfwww.kek.jp/indexj.html>)の「PFの運転状況／長期スケジュール」(<http://pfwww.kek.jp/unten/titlej.html>)をご覧ください。

物構研談話会

日時：9/3 (火) 10:00～

題名：XXXL Solutions for specialty applications Or how to meet your high efficiency Gamma & X-ray detection requirements

講師：Dr. Marie-Odile LAMPERT (キャンベラフランス工場工場長)

日時：11/15 (火) 16:00～

題名：多成分磁気構造を持つオリビン型マンガン酸化物 Mn_2GeO_4 におけるマルチフェロイック特性

講師：本田 孝志氏 (大阪大学大学院 基礎工学研究科)

日時：11/28 (木) 10:00～

題名：In-situ XAS, RIXS and TXM experiments

講師：Prof. Dr. Frank de Groot (Synchrotron and Theoretical Spectroscopy Debye Institute of Nanomaterials Science Utrecht University)

⑤ 物構研サイエンスフェスタについて

⑥ マルチプローブ課題導入について

⑦ 次期所長選考について

2. その他

① 5年度放射光共同利用実験課題の審査結果 (U型) について

② 平成25年度後期放射光共同利用実験課題の審査結果について (条件解除)

③ 平成26年度概算要求について

④ J-PARC センター及び東海キャンパスの運営体制について

⑤ 覚書等の締結について (資料配付のみ)

【3】研究活動報告 (資料配布のみ)

1. 物質構造科学研究所報告

2. 素粒子原子核研究所報告

3. 加速器研究施設報告

4. 共通基盤研究施設報告

第53回物質構造科学研究所運営会議議事次第

日時：平成25年10月23日 (水) 13:00～

場所：高エネルギー加速器研究機構 管理棟大会議室

【1】審議事項

① 特定有期雇用職員の雇用について (物構研)

② 教員人事 物構研 13-7 特別助教 1名

③ 教員人事 物構研 13-8 特任助教 1名

④ 教員人事 物構研 13-12 学術フェロー 1名

⑤ 教員公募 構造生物 助教 1名

⑥ 教員公募 講師 1名

⑦ 教員公募 電子材料 特任助教 1名

⑧ 教員公募 磁性材料 特任助教 1名

⑨ 教員公募 光量子連携融合

特任准教授または特任助教 1名

⑩ 教員公募 特別助教 若干名

⑪ 教員公募 博士研究員 若干名

⑫ 教員公募 ミュオン 特別助教 若干名

【2】報告事項

1. 所長報告

① 人事異動について

② 研究員選考結果

③ 陽電子評価委員会・将来検討委員会設置について・委員案

④ 大学共同利用シンポジウムについて

内部スタッフ・大学院生優先ビームタイム採択課題一覧（2013年度前期）

課題番号	申請者	所属	課題名	希望ステーション	希望ビームタイム	実施ビームタイム
2013PF-01	阿部 仁	PF	ホウレンソウの塩茹でにおける食塩の効果の検証の模擬実験	9A, 12C	60時間	60時間
2013PF-02	井上 圭介	総研大	放射光X線による Si-APD および高速型シンチレーション検出器の特性評価	14A	2日間	48時間
2013PF-03	手塚 泰久	弘前大学	BL13 における軟X線発光実験	13	6日間	0時間
2013PF-04	手塚 泰久	弘前大学	BL16 における軟X線発光実験	16	6日間	
2013PF-05	足立 純一	PF	軟X線パルスセクターの運転安定性試験	20A	3日間	72時間
2013PF-06	呉 彦霖	総研大	Laue 結晶における Borrmann fan 形成と位相画像の空間分解能に関する研究	14C	6日間	168時間
2013PF-07	高橋 博樹	日本大学	新たな低温高压装置の立ち上げおよび比較試験	18C	1週間	120時間
2013PF-08	藤崎布美佳	総研大	XAFS 測定による NaAlH ₄ の局所構造の検討	11A		24時間

物構研職員および物構研に籍を置く大学院生は、次に掲げる項目の実験を行うために、下記手続きを経て優先的にビームタイムを使用できる。

- (1) 新しい実験手法のテスト（装置開発など）
- (2) 試料のテスト（興味深い試料の予備実験など）
- (3) 大学院生の研究指導
- (4) 新しい研究の予備実験

<補足>

- 予備的段階が終了して、本格的に研究を行う場合は物構研職員等も PAC に課題申請する。ポスドク、総研大生についても可能な限り速やかに、受入教員またはポスドク本人が共同利用課題申請を行うこと。
- 1ステーションあたり、優先ビームタイムの配分は年間運転時間の20%程度までとする。

施設留保ビームタイム採択課題一覧 (2013 年度前期)

課題番号	申請者	所属	カテゴリー	課題名	希望 セッション	希望 ビームタイム	実施 ビームタイム
2013R-1	割鞘 雅一	アステラス製薬	g	放射光を利用した顧みられない熱帯病治療薬創出のためのタンパク質構造解析研究	5A		63.5 時間
2013R-2	松垣 直宏	KEK-PF	b	創薬等 PF 事業におけるビームライン技術開発	1A, 5A, 17A, NW12A, NE3A		1047.5 時間
2013R-3	清水 伸隆	KEK-PF	g	創薬等支援技術基盤プラットフォームにおける溶液散乱スクリーニング	10C,6A		96 時間
2013R-4	神戸 高志	岡山大学	g	アンモニア溶媒を用いて合成した AFe ₂ Se ₂ (A=Ba, Cs, K) 超伝導体の結晶構造	8B	48 時間	48 時間
2013R-5 (2013G231)	Wang Yanli	Institute of Biophysics	c	Structural studies of Stim1-Orai1 complex	1A	29 時間	37.5 時間
2013R-6	矢嶋 俊介	東京農業大学	g	ヒドラジン分解酵素の立体構造解析	NW12A	14 時間	22.5 時間
2013R-7	清水 伸隆	KEK-PF	e	第 1 回タンパク質 X 線溶液散乱講習会におけるテスト測定	10C	24 時間	24 時間
2013R-8	山本 洋平	筑波大学	e	ポリフッ化ピリリデンやオリゴペプチドの集積構造の解明	8B	24 時間	24 時間
2013R-9 (2013G194)	五十嵐圭日子	東京大学	c	真菌由来セルラーゼ PcCel45A の高分解能 X 線結晶構造解析	1A	6 時間	22.5 時間
2013R-10 (2012G569)	胡桃坂仁志	早稲田大学	c	クロマチンダイナミクスと DNA 損傷修復に関わる複合体の構造解析	1A	14.5 時間	23 時間
2013R-11	鈴木 守	大阪大学	g	リボヌクレアーゼの抗腫瘍細胞等生理活性の解明と応用	17A	8.5 時間	23 時間
2013R-12	松垣 直宏	KEK-PF	e	創薬等 PF 事業における初心者向け講習会	1A, 5A, 17A, NW12A, NE3A		22.5 時間
2013R-13	平山 朋子	同志社大学	b	X 線回折法による二円筒試験機内潤滑油膜の構造解析	NE-7A	96 時間	96 時間
2013R-14	東 善郎	上智大学	b	新規設置 Scienta R4000 光電子アナライザーの立ち上げと調整	20A	48 時間	48 時間

- a) マシン, ビームラインの故障等に対するビームタイムの補填。
- b) ビームライン・実験装置の性能向上をスピーディにする。
- c) 早期に成果を創出するために, やり残した実験を実施する。
- d) U 型課題の受付をし, 重要な研究の計画から成果公表までの時間を短縮する。「既配分課題を排除する程の重要性」ではなくても緊急かつ重要な U 型研究課題を実施する。U 型申請, 審査は従来通り行うが, 留保枠, 未配分 BT 内で実施すべきものはレフェリーの意見を参考に PF-PAC 委員長が判断する。
- e) 講習会, 実習等や有望な新規ユーザーを開拓する。※ 利用経験者による新しい研究提案は U 型課題として処理する。
- f) 教育用ビームタイムの時間確保。
- g) 施設, ビームラインの運営に対する柔軟性を増し, 一層の成果拡大に対して工夫する自由度を作る。外国の放射光施設職員等の来所時にテスト実験を行う等運用上の柔軟性を確保する。

「PF ニュース」からのお知らせ

平成 24 年度からの PF-UA の発足に伴い、PF ニュースはウェブが主体となりましたが、引き続きご愛読を賜り感謝致します。今後も新しい企画記事の連載など誌面の充実につとめ、PF ニュースをより魅力あるものにしていきます。昨年リニューアルした PF ニュースウェブページには、冊子版では白黒となっている図等もオリジナルのカラーのものを掲載しています。ウェブ版もお楽しみ頂ければと思います。

ウェブ掲載時にはメールでお知らせするシステムも運用しています。希望される方は、どうぞご登録下さい。PF ニュースウェブページにフォームを掲載しています（※ KEK の共同利用者支援システムでユーザー登録をされた皆様には、PF メルマガが配信され、そちらにも PF News 発行のお知らせが載りますので、その方はお知らせメールの登録は必要ありません）。

PF ニュース編集委員一同

投稿のお願い

【最近の研究から】

PF で行われた実験，研究の成果をお寄せ下さい。

【建設・改造ビームラインを使って】

特にビームラインの改良点，他のビームラインとの比較，要望等を是非お聞かせ下さい。

【ユーザーとスタッフの広場】

PF での実験の成果等が認められ受賞された方，海外放射光施設に滞在，訪問された方，国際会議等に参加された方，修士論文等，どうぞご投稿下さい。また PF に対するご意見等がありましたら是非ご投書下さい。

詳細は事務局または PF ニュース HP をご覧下さい。

宛 先

〒 305-0801 茨城県つくば市大穂 1-1
高エネルギー加速器研究機構
物質構造科学研究所 放射光科学研究施設内
PF ニュース編集委員会事務局
TEL : 029-864-5196 FAX : 029-864-3202
E-mail : pf-news@pfqst.kek.jp
URL : <http://pfwww.kek.jp/publications/pfnews/>

編集後記

私にとって、雑誌の編集委員を初めて務めさせていただいたのが、この PF ニュースでした。もう少しで任期が終わってしまいましたが、編集委員会のあたたかい雰囲気といえますか、少しでも読者の皆様の役に立つようにという姿勢は勉強になりました。恥ずかしながら自分の研究のことしか考えていなかった私ですが、今後はコミュニティーの役に立っていききたいという視点が持てるようになりました。私にとっては KEK では KENS にお世話になったのが先で修士の学生の頃からです。PF はポストク時代、その後、助教になって PF-AR のユーザーになりました。20 代の頃は毎年自分の誕生日を KEK での実験中にひそかに迎えて、結局丸一日実験していて、誰にも祝ってもらえないという悲しい学生時代を過ごしました。海外の施設に行きますと、グループのリーダーの先生は、学生などグループメンバーの誕生日だけは忘れないように気を付けていて、必ずお祝いのメッセージを送っているのが印象的でした。出張実験の夕食の際にでも、誕生日おめでとうなどと言ってもらえたら、当時の私ならやる気 100 倍です。そんな暖かい心遣いができるようなリーダーに、将来はなりたいなと思います。(A.C.)

平成 25 年度 PF ニュース編集委員

委員長	岡林 潤	東京大学スペクトル化学研究センター			
副委員長	阿部 仁	物質構造科学研究所			
委員	足立 純一	物質構造科学研究所	安達 成彦	物質構造科学研究所	
	宇佐美徳子	物質構造科学研究所	小野 寛太	物質構造科学研究所	
	帯名 崇	加速器研究施設	杉山 弘	物質構造科学研究所	
	田中 万也	広島大学サステナブル・ ディベロップメント実践研究センター	千葉 文野	慶應義塾大学理工学部	
	辻 淳一	(株) 東レリサーチセンター	長江 雅倫	理化学研究所基幹研究所	
	原田 雅史	奈良女子大学生活環境学部	深谷 有喜	日本原子力研究開発機構	
	山崎 裕一	物質構造科学研究所	山本 勝宏	名古屋工業大学大学院工学研究科	
事務局	高橋 良美	物質構造科学研究所			